

天草市立牛深中学校第1学年3組 技術・家庭科(家庭分野) 学習指導案

日 時：平成21年10月30日(金) 第2校時

場 所：家庭科室

指導者：教諭 隅田 博美

1 単元名 3年間を見通した技術・家庭科ガイダンス

2 単元について

(1) 単元観

現代では、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、生徒が生活を自立して営めるようにするとともに、自分なりの工夫を生かして生活を営むことや、学習した事柄を進んで取り入れ、生活を工夫し創造する能力を育成するなど、「生きる力」をはぐくむことが求められている。

そこで、技術・家庭科では、これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力をはぐくむことをねらいとしている。

今回、技術・家庭科の学習指導要領改訂では、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しを持って、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、小学校、中学校ともに同じ枠組みを持つ四つの内容で構成することで、小学校と中学校の内容の体系化を図ることができるようになっている。そして、この単元では、基礎的・基本的な知識と技能、生活をよりよくしようと工夫する能力及び実践的な態度を確実に定着させるために、小学校と中学校における内容の円滑な接続を図ることが必要となっている。

ここで、中学1年生の最初の学習の前にガイダンス的な学習を取り入れることで、生徒たちに学習への関心と見通しを持たせることができると考え、この単元を設定した。

(2) 系統観

小学校の学習内容と中学校の学習内容のつながりは下図のようになる。

小学校 家庭科	中学校 技術・家庭科(家庭分野)
A 家庭生活と家族 (1)自分の成長と家族 (2)家庭生活と仕事 (3)家族や近隣の人々とのかかわり	A 家族・家庭と子どもの成長 (1)自分の成長と家族 (2)家庭と家族関係 (3)幼児の生活と家族
B 日常の食事と調理の基礎 (1)食事と役割 (2)栄養を考えた食事 (3)調理の基礎	B 食生活と自立 (1)中学生の食生活と栄養 (2)日常食の献立と食品の選び方 (3)日常食の調理と地域
C 快適な衣服と住まい (1)衣服の着用と手入れ (2)快適な住まい方 (3)生活に役立つ物の製作	C 衣生活・住生活と自立 (1)衣服の選択と手入れ (2)住居の機能と住まい方 (3)衣生活、住生活などの生活
D 身近な消費生活と環境 (1)物や金銭の使い方と買物 (2)環境に配慮した生活の工夫	D 身近な消費生活と環境 (1)家庭生活と消費 (2)家庭生活と環境

(3) 生徒観(生徒の実態)

本校には牛深小学校、天附小学校、魚貫小学校、二浦小学校の四つの小学校区がある。学習事前アンケートは以下のような結果であった。

(A いつもする B ときどきする C ほとんどしない D しない)

- 食事の取り方に気を付けているか (A 33% B 28% C 18% D 21%)
- 洗濯をしたことがあるか (A 48% B 18% C 16% D 18%)
- まつり縫いをしたことがあるか (ある 10% ない 90%)
- 掃除をしているか (A 37% B 40% C 16% D 7%)
- 洗剤の使い方を考えて掃除をしているか (A 22% B 26% C 34% D 18%)
- ゴミの分別を行っているか (はい 75% いいえ 24% 無回答1%)
- 家族の一員としてできることを行っているか (A 34% B 38% C 18% D 10%)
- 家庭分野の学習は大切だと思うか (思う91% 思わない9%)
- 普段の生活に役立つと思うか (思う88% 思わない12%)

(4) 指導観

- ・小学校における学習内容の習得状況を確認するとともに、生徒の実態を把握し、これまでの学習や生活経験を生かして、家庭科の学習内容について理解させる。
- ・1学年の最初に学習の見通しを持たせることで、家庭分野で学ぶ四つの学習内容を理解させる。
- ・小学校家庭科の学習内容を振り返らせるとともに、学習状況を把握する。
- ・中学校3年間でどのようなことができるようになりたいかを考えることで、よりよい生活を築いていこうとする態度を育てる。
- ・自分の成長とそれにかかわってきた人々や成長過程を振り返るなどの活動では、生徒のプライバシーには十分配慮する。

(5) 研究テーマとの関連

・本校の研究テーマ

「豊かな心」「健やかな体」を持ち、「確かな学力」を身に付けた生徒の育成
～熊本型授業の展開と個に応じた積極的生徒指導の充実を通して～

・教科の研究テーマ

「確かな学力」を身に付け、生活を工夫し創造する実践的な態度の育成
～基礎的・基本的な知識と技能の定着を図る授業展開の工夫と改善～

実践的・体験的な活動を重視しながら、教材・教具の工夫、生徒の実態に応じた課題の設定を行い、徹底と能動のメリハリをつけた授業展開の工夫を行うことで、生徒一人一人に基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着が図られると考える。また、学習内容ごとに関連を持たせ、生徒が主体的に学習を進める場の設定を行うことで、教科での学びを生活に生かしていこうとする実践的な態度が育成され则认为る。

- 生徒が主体的に学べる教材の工夫を行い、生活と関連した生徒の主体的な学習を促す。
- 生徒の実態に応じた学習シートを工夫し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
主体的に学習を進めるための学び方の基礎を身に付けさせる。
- 班での言語活動を効果的に行うことで、生徒同士の学びを高め合う場面を設定する。

3 単元目標

- 小学校家庭科を踏まえて、家庭分野で学習する内容についての3年間の見通しを持たせ、学習する意欲を高めるようにする。
- 家庭分野の学習が、生活の自立や家族と共に家庭生活を工夫し創造する能力につながることに気付

かせ、学習への期待と意欲を持つことができるようにする。

4 観点別評価

○関心・意欲・態度

家庭分野の学習について関心を持つ。

○工夫・創造

家庭生活に課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。

○技能

家庭分野の学習の中で必要な技能を、言語活動を通して整理することができる。

○知識・理解

3年間の家庭分野学習内容について理解する。

5 単元・題材の学習計画及び評価計画 本時：2/2時間目

学習計画 (時間)	観点別達成目 標(評価規準)	観 点				A 基準	B 基準	評価方法
		関 心	工 夫	技 能	知 識			
家庭分野 ガイダンス (2時間)	3年間の家庭分 野学習の見通し を持つことがで きる。	○				小学校を振り返り、 中学校卒業時の自 立した姿を考える ことができる。	家庭分野の学習 について3年間 の見通しを持ち、 自立と共生につ いて理解するこ とができる。	ワークシー ト

(1) 留學の目的：3年間の家庭分野学習の見通しを持つことができる。

＜本時の評価規準＞
3年間の家庭分野学習の見通しを持つことができる。 ○評価方法：ワークシート

〈評価基準〉
基準A：小学校を振り返り、中学校卒業時の自立した姿を考えることができる。
基準B：家庭分野学習3年間の見通しを持ち、自立と共生について理解することができる。
○基準Bに達しない生徒への支援：小学校の既習内容を振り返らせ、具体的な学習内容について資料を用いて知らせる。